

上野市社会事業協会

2002

2002年1月20日 第1号
社会福祉法人上野市社会事業協会
発行者 森下達也
編集責任者 西岡時彦
〒518-0032 三重県上野市朝屋739番地の2
TEL 0595-21-5545
FAX 0595-23-6670



(伊賀上野城の石垣)

新世紀いよいよ本番

社会福祉法人 上野市社会事業協会理事長

森下達也

新春をおよろこび申し上げます。二十一世紀二年目の
お正月を、皆さまそれぞれに、様々なスタイルでおすご
しになったことと思います。私の除夜は、紅白歌合戦の
終る少し前に家を出て、徒歩で寺町筋を北へのぼり上野
天神宮に参拝、大篝火にしばらくあたって帰るという、
例年どおりのものでした。在宅障害者デイサービス施設
かしの木ひろばの前をすぎると、大超寺と念仏寺が道を
はさんで撞く鐘の音が、寒夜の大気を震わせます。大津
事件の犯人津田三蔵巡査の小さな墓のある大超寺墓地、
鍵屋の辻の仇討ちに仆された川合又五郎の墓のある万福
寺、藤堂高虎の父虎高の御廟所のある上行寺などを左右
に見ながら寺町をぬけると、すぐ左手が、上野天神宮で
す。芭蕉さんと忍者で知られた当地ですが、寺町にある
目立たない史跡も一度ご覧になりませんか。

さて有り様にいえば、今この国にせまる経済危機は、
安穩と傍観できる様なものではないでしょう。総理のい
われる改革が進行し対策が講じられたとしても、当分増
え続ける失業者と、急速に進む人口構造の変化と、不用
意に拡大した社会資本の維持と、そして中国の十倍とも
三十倍ともいわれる人件費水準とが、再び重圧を加えて
くるであろうことは疑いありません。「予測」は、政治
家や経済専門家だけのものでなく、学ぶ姿勢をもってい
る者なら、自分の頭で考え、常識に照らして判断すべき
ものと私は考えます。その不安はひとまず横に置き、来
たるべき事態の中で私たち福祉に何ができるのか、凄惨
な市場の戦いに呑み込まれることなく、福祉の本質をど
う守りぬくか、私たちの任務の一つがそこにあります。

第16回子どもたち作品展=未来へワープ!=

平成十三年十一月十七日、ゆめドームうえの第一競技場において、「第十六回子どもたち作品展」を開催しました。

共同制作は、「未来へワープ」というテーマで当協会立十三保育園の年長児三百二名が、宇宙、海、ジャングル、陸の世界の夢や未来を空想し表現しました。子どもたちのアイディアも豊かで、ダイナミックな作品に感動しました。絵画は、



子どもたちの作品は“ゆめドーム”いっぱい展示された



多くの来場者でにぎわった“ゆめドーム”の会場

三・四・五歳児計九百三十三名の作品を展示しました。どの作品も子どもらしく伸びやかで、意欲的に描かれていて、見る人を魅了しました。

ふれあい広場では、まるで忍者の国へワープしたような雰囲気の中、忍ジャーズダンスを鑑賞したり、手遊びや忍者音頭が行なわれ、親子のふれあいを深める良い機会になりました。

遊びのコーナーでは、紙コップを使ったロケット作りやままごと遊び、大型遊具の遊びなどに人気がありました。

また、子どもと食事のコーナーでは、食物繊維を多く含んだ副食やおやつを紹介しました。幼い頃から食生活が大切であることを知ってもらえるよう、レシピの配布もしました。ドームいっぱい子どもたちの歓声が響きわたり、盛況のうちに終了しました。

『家庭での子育ての大切さ』

開催中

梅澤令紀先生の子育て講座

みどり保育園では、「家庭での子育ての大切さ」と題して上野市同和教育研究協議会会長の梅澤令紀先生に子育て講座のご講演をいただきました。梅澤先生は、教育関係や保護司のお仕事に長年携われ、幅広いご経験から、子どもをめぐる問題を社会全体の中から促えられ、家庭での子育ての大切さについて、保護者にわかりやすく話して下さいました。

戦後社会の大きな流れの中で、核家族化が進み、子育て環境が昔とすっかり変わってしまいました。現在の乳幼児への虐待、小学校での学級崩壊、中学校でのいじめや不登校、思春期のひきこもりや非行など子どもの問題は、様々な形で吹き出して

います。梅澤先生は、「乳幼児期に親と子の心のつながりを大切にしなければ、その後の人間関係がうまく形成されない。」と訴えられました。また、「この時期は、子どもを怒ってはいけません。わかるように叱ることが大切。お父さんも大いに育児に参加してもらい、お母さんだけで悩まず明るい気持ちで子育てをして下さい。」と結ばれました。

この子育て講座は、梅澤先生を講師として一年間にわたって当協会十三保育園全園で実施していただいています。

わかりやすく講演してくださる梅澤令紀先生



もうすぐ完成！

— ゆめが丘保育所 —

上野市初の公設民営の保育所『ゆめが丘保育所』は、今春四月の開所を目ざして着々と建設中です。施設の概要等は次の通りです。

◎上野市ゆめが丘 五—十四—一番地

◎敷地面積 三、七〇〇

◎建物の構造及び面積

鉄骨造り一部二階建

一、二一八・七

◎入所定員 一二〇名

延長保育や地域子育て支援センター等地域の子育てや就労を支援できる保育所として期待されています。



ゆめが丘保育所の完成予想図

さの行動

いのち 生命たいせつ 救命講習会に参加して

当協会の施設安全推進委員会では、伊賀北部消防組合消防本部において救命講習会を開催し、十三保育園から保育士十八名が参加しました。

まず、ビデオを通して応急手当の大切さを学びました。保育現場においても、救急車と呼ばなければならぬような事態に遭遇するかもしれません。救急車は到着するまでに早くても五分はかかるそうです。その五分が生死を分けるということです。そのビデオは実話をもとに作成されているので、五分の重みを私たちに訴えるものでした。ドリンカーの救命曲線に



真剣に救命講習を受ける職員

6年目を迎えた児童クラブ「フレンズうえの」

伊賀で初めての児童クラブ「フレンズうえの」が開所して、早くも六年になります。現在、三十名の児童が生き生きと生活を送っていますが、開所当初は学校との連携がうまくとれるだろうか、地域や学校生活において児童が仲間はずれにされないだろうか、心配な事がありました。幸いなことに、発足当時の校長先生が児童クラブに強い理解を示してくださり、以後先生方と連絡を密に取り合っています。また、



「フレンズうえの」のなかよし仲間

地域と遊離しないよう常に心掛け、働きかけてきたことよって、地域の方々も徐々に「フレンズうえの」の存在を理解してくださるようになって、今では、当初の不安も解消され、地域の中の児童クラブとして、その役目をしっかりと果たしているように思います。

平成十二年九月から、「キッズうえの」「ウイングうえの」が開所しました。互いに児童クラブが連携をはかりながら、母親の就労支援と子どもたちの心身の健全育成をめざし、楽しく充実した放課後生活が送れるよう、さらに努力していきたいと思っています。

を痛感しました。その後、消防署職員による人形を使つての心肺蘇生法の実技指導を受けました。でも、手順が理解できても実際にすることはむずかしく必死の思いでした。その時、消防署職員の方に「何もしないより、何かをして下さい」と促され、一歩踏み出す勇気をもつことが大事だと感じました。その為には日常の訓練や研修が大切であることを改めて認識しました。

皆様 ありがとうございます

記念式典 と 第一回 往古梨まつり

「梨ノ木園開園三十周年」
「第二梨ノ木園開園二十周年」
「上野点字図書館開館三十周年」

— えべっさんが舞い込んだ —

去る十月二十七日、「梨ノ木園開園三十周年、第二梨ノ木園開園二十周年、上野点字図書館開館三十周年」の記念式典が開催されました。地元地域の方々、利用者並びにご家族など関係者多数のご臨席をいただき、席上、今岡睦之上野市長、平井弘郎上野市議会議長にはご祝辞を賜りました。



梨丘園ラウンジで行なわれた記念式典であいさつをする森下理事長

式典の中で、は、それぞれの施設に対し、多年にわたり奉仕活動が続けていただいている個人、団体の皆様に森下達也理事長より『感謝の楯』が手渡されました。

▽上野市消防団西部分団長田部 ▽長田地域婦人会 ▽朝屋婦人会 ▽ボランティアグループあゆみ ▽ボランティアグループミックスジュース ▽小林ふじ智 ▽光輪花クラブ ▽月曜会 ▽奥田英夫・やへ子 ▽上野点字訳奉仕グループ ▽上野音訳グループのび ▽名張点訳奉仕グループあかり ▽名張音訳グループこま ▽法音寺上野支院安立寺 ▽中森勇

(敬称略)

梨丘園のラウンジで行なわれているセレモニーが感謝のうちに終わろうとする頃、梨ノ木園広場は、ご家族やボランティアの方々に誘導された梨ノ木園や第二梨ノ木園、そして今年から新しく加わった梨丘園の方々でいっぱいになりました。三十二回という歴史と思い出を重ねてきた模擬店でしたが、今年から「往古梨まつり」と改め、第一回目が盛大に行なわれました。

昔、往古梨と呼ばれたというこの地の由来から、名付けられた「往古梨まつり」は、おめでたい「恵比寿まわし」の名調子で幕を開けました。

「はあ、えべっさんが舞い込んだ、舞い込んだ」会場中央に元氣よく現われた「恵比寿まわし」の華房良輔さんと井上



「えべっさんが舞い込んだ」と元氣な「恵比寿まわし」のお二人

恵さんのお二人に、会場から拍手がわきました。恵比寿人形が、なめらかな唄い文句に合わせて軽妙な動きをします。まるで魂が吹き込まれたかのように、時には表情さえ変化したて見える名人芸です。相方の鼓がポコポコと小気味よく響き、二人のユーモラスなかけ合いに会場はどっと笑いの渦。恵比寿さまが見事な鯛を釣り上げたところで「めでたい、めでたい」と大きな拍手です。

続いて、マンドリンアンサンブルセシリアの方々が、素晴らしい演奏を聞かせてくださいました。『青い山脈』等の懐かしい曲の数々に、心をゆだねたひとときでした。次に、上野商業高校一年生の生徒の皆さんによる『よさこいソーラン』の踊りは、会場いっぱい若さをみなぎらせていました。お昼は食べ物コーナーで楽しくおなかを満たし、午後からは、梨ノ木園・第二梨ノ木園と梨丘園・デイサービスセンターが、それぞれ持ち味を活かした催しを行ないました。第一回往古梨まつりは、忘れられない思い出をみんなの心に残してくれました。

晩秋の温泉旅行

十一月十三日、十四日の二日間の日程で、恒例の『秋の温泉旅行』に行ってきました。目的地は湯の山温泉「ゆずりは荘」。園を出発し、約二時間、バスにゆられながら、寮母が山々の紅葉の様子を説明したり、クイズをしたりしていると、あつという間にゆずりは荘に到着しました。それぞれ部屋に案内していただき、小休憩をしたあとゆっくり温泉にひたりました。みんなとてもリラックスした様子でした。

楽しい会食がすむと、みんなでゲームです。歌を唄いながら景品を廻し、何が手元にくるのかワクワクドキドキ！ 手元の景品とクイズが一致した時には大きな歓声があがりました。カラオケでは、自慢の声を披露するなど、和気あいあいの中、楽しいひとときを過ごしました。

翌日は、朝風呂に入る人、みやげを買う人それぞれでしたが、「今年はいへん楽しかったなあ！ 来年も楽しみにしておくれ」など、思い出っぴいはずりは荘をあとにしました。



「たのしい温泉旅行でした」ゆずりは荘にて



川浪玲子先生(前列左より3人目)を囲んで

梨ノ木園と第二梨ノ木園の俳句クラブの方々とともに、新しく開設された梨丘園の利用者の方も加わって、句会の座も大きくなりました。川浪先生を囲んで、楽しくご指導いただきながら四季折々の作句にいそいそと、年代を越えて、俳句と趣味に生きた前向きな姿勢がうかがえる思いです。

俳句クラブ

新しい講師を
お迎えしました

梨ノ木園の玄関を入ると、正面の掲示板に俳句の短冊が掛けられています。ご来園の皆さまがふと足を止めて、それらの句を読んで下さっています。毎月掛け変えられる俳句には、この施設に老後を託したお年寄りの方々の日々の生活が、ごく自然に、けれど鋭い感覚でとらえられています。そんな俳句クラブの方々の活動を、長い間見守り支え、ご指導いただいた堀本太久先生が八月をもって勇退され、新しい講師として、川浪玲子先生をお迎えすることになりました。

いただきま〜す

皆さん、悪玉菌を増やしていませんか？

腸内細菌には、腸内の状態を良くし、免疫力をつける善玉菌と、腸内を老化させる悪玉菌とがあります。その善玉菌のエサとなるのが食物繊維で、悪玉菌のエサが肉なのです。

食物繊維は、1日平均20~25g摂取すればよいとなっていますが、実際は1日17gくらいしか摂取されていません。日本人がこうむる癌のベスト5にも、大腸癌がはいっています。

そこで、今の食生活をちょっと見直してみませんか？ 和食中心だったときは、食物繊維を意識しなくても、もっと摂れていたはずですよ。お肉を食べるときも、善玉菌のエサとなる食物繊維も一緒に食べるということを心がけましょう。



敬老祝賀会

—笑顔は長寿の秘訣—



敬老の日9月15日には、今岡市長をはじめ来賓の方々のご来園くださり、お年寄りにあたたかい励ましのお言葉をいただきました。

第二梨ノ木園では、今年米寿を迎えられた5名のお年寄りの方々に、市長より『寿』という文字の書かれた記念の赤い座布団が贈られました。「長生きしてて良かった。」「次は百歳を目指したい。」など、たのもしき声を聞かせていただくことができました。

その後、お年寄りの健康と長寿を願って、職員による恒例の演芸会が行なわれました。伊賀上野名物の忍者衣装を身にまとい踊ったり、派手な衣装とメイクで漫才や寸劇を熱演。また、お年寄りにも、忍者の衣装や刀にふれてもらうなど、会場は終始笑いが満ちて、素敵な笑顔でいっぱいになりました。仕事の合間を利用して練習に励んだ職員ですが、また来年も、多くの笑顔に出会いたいと願っています。



米寿を迎えられたお年寄りスタッフ

家庭での介護や看護について

な やみごと

し んぱいごとは ありませんか？

なし の きに ご相談下さい。

き っといい方法が見つかるはずですよ。



ご相談のある方は、下記までご連絡下さい。

介護相談・介護計画作成や
介護保険以外の福祉サービスの
手続き(代行業務)等も
お手伝いいたします。

在宅介護支援センター

なし の き

TEL 22-0505

「^{りきゅうえん}梨丘園」の開園、そしてその後

昨年五月十五日、身体障害者療護施設「梨丘園」が開園し、最初の利用者の方が、少しの不安と緊張を抱きながらも溢れんばかりの笑顔で入園されました。私たち職員はこの様子をうかかがいながら「利用者の方たちと共に、安心のできる居心地の良い生活の場を創造していこう。」という思いを強く持ちました。

開園間もなく利用者の方と最初に取り組んだ活動は、「園内ウォークラリー」でした。私たちは、身体に障害を持つ利用者に、施設の構造・設備を知っていたことが、皆さんがより快適に梨園を出ていただくうえで最も考えたのです。さらに、リ

えていない。いっぺん市街を見学したい。」との声があり、早速その希望を「市内めぐり」という行事としてスタートしました。周囲の風景を視覚に障害のある方には、言葉に表えて、また、聴覚に障害のある方には、ジェスチャーや筆談法を使いながら説明し、上野市街を見学しました。現在では、「リクエスト外出」に発展し、利用者の自己選択や自己決定を尊重した外出活動として実施しています。

開園して一年にも満たない施設ですが、平成十五年度より始まる「支援費制度」に向けて、利用者本位のサービスが提供できることを最大の使命として、日々努力していきたいと思っています。

今後とも、皆様のご指導ご支援を賜わりますよう、よろしくお願い申し上げます。

十月中旬の暖かな小春日和に、デイサービスセンターなしのきでは、白樫にある『岡八幡宮』へお参りに行きました。コスモスの花が咲き乱れ、そろそろ紅葉が見られる頃 秋を訪ねて小旅行として実施しました。

のきから車でゆつくり走っても十五分くらいの所にある神社です。上野に住んでいても初めて、と言われる方がほとんどで、名所発見の感がありました。神社の歴史は古く、一一九〇年、源頼朝

公の直命で鎌倉の『鶴が岡八幡宮』の末社を全国に配置する計画の第二号として白檜に完成されたもの、ということです。

初めて訪ねた日は、ちょうど「秋祭り」の日に当たり、甘酒とお餅をご馳走になりました。神社のいわれも珍しい話に耳を傾けながらおなかもいっぱい。お天気にも恵まれ、景色はいいし、気分は上々でした。参加された皆さんは、ニコニコとお祭り気分を味わっていらつしやいました。

長い石段の上に見えた拝殿でしたが、宮司様のご配慮ですぐ側まで車で上がらせていただくことができました。外出を心配されていた車椅子使用の方も喜んで下さり、とても良かったです。熱心に手を合されていたお年寄りの皆さんは、何をお願いされていたのでしょうか。



上野市身体障害者スポーツ大会(10/14)にも参加しました

ほけんだより

— 老人性皮膚癢疹症について —

皮膚搔痒症とは、皮膚に強いかゆみを訴えるものと定義されています。75歳以上の高齢者では、50%以上の人が強いかゆみを経験するといわれ、皮膚を注意深く観察すると、皮膚は乾燥して、皮脂欠乏症の状態になっています。かゆみを訴えるのは、脂線の数の少ない両下腿や前腕が多いようです。また、かゆみの原因として皮脂欠乏症の他に、環境因子、心因反応、薬物、食品の摂取、内臓疾患を考えます。環境因子では、乾燥とともに高温多湿でもかゆみが生じますし、心因反応では、気に入らないことがあったり、いらいらするとかゆくなるというもので、その老人の背景をよく知ることが、かゆみの原因を探るひとつの手段となります。

梨ノ木診療所
山中相模医師



「岡八幡さん」へおまいりに

デイサービスセンター “なしのき”

“秋を訪ねて”——岡八幡さんにお参りました

数々の
チャレンジ

第8回 かしの木ひろば さく・咲く・作品展

平成十三年十一月二十九日(木) から十二月一日(土)までの三日間、在宅障害者デイサービス施設かしの木ひろばにおいてデイサービス利用の皆様の作品展を開催しました。

利用者全員による絵画をはじめ陶芸、木工、手芸、伊勢型紙、さをり織、七宝焼、生け花、俳句、書道など約二百点余りの作品とお茶のお点前を發表し、関係機関や地域の方々、ご家族、友人に見ていただくことができました。

今回は、パソコンを使った作品が増え、クリスマス



パソコンを使って作品づくりに頑張りました

カード、日記などを出展しました。マウスの操作やキーのタッチで選んだ画面が設定され作品になる感激を味わいました。両上肢が不自由な方の日記は、口にくわえたスティックでキーを打ち、つづっていったものです。

三日間で二百人の方がご来場下さり、励ましのことを多数頂戴しました。障害のある方が積極的に生きることの意義を見つけることができましたように思います。



平成十三年十月十五日(月)、三重県上野庁舎において、伊賀広域在宅障害者生活支援センターかしの木主催の第五回講演会を、当法人理事長の森下達也が講師として「変わりゆく社会と福祉を注視しよう―システムが福祉の『心』を変える―」の

伊賀広域在宅障害者生活支援センターかしの木 第五回講演会

演題で開催しました。

昨今の社会福祉情勢について、中央の福祉情勢の検討に長く関わってきた立場から、わかりやすく説明があり、会場内では傾く障害者の姿が見受けられました。マーケットにすべてを委ねている筈のアメリカが多



三重県上野庁舎で講演する森下理事長

発テロ事件以降、国民の安全を守るために多くの強力な規制を行なっている事実は、福祉においても規制緩和と一辺倒では適切でないという考え方を示されると共に、しかし福祉の活性化のために、私たちは外の社会から学ぶべきものが多いということ

にも言及されました。

講演会終了後、参加された方から「難しい内容を、わかりやすく話してもらったので有意義でした。」との意見をいただき、盛会の内に終えることができました。

ボランティア養成講座

◎平成十三年六月二十三日 開講式

講演「最近の福祉情勢」

講師・社会福祉法人

上野市社会事業協会

理事長 森下 達也

◎平成十三年七月十四日

講演「重症心身障害者について」

講師・国立療養所鈴鹿病院

小児科医長 中野千鶴子氏

◎平成十三年十月十三日

講演「私の生い立ちⅡ身も心も

メイドインUSA」

講師・皇學館大学

教授 大野 光彦氏

他五回 参加者延べ二二六名

心身障害児者ホームヘルパーより

在宅障害者デイサービス施設かしの木ひろばでは、心身障害児者を対象にホームヘルプサービスを行なっています。

それぞれのお宅へ行き、入浴介助・清拭などの身体介護、調理・洗濯・掃除などの家事援助、通院介助や散歩をさせていただいています。

また、特徴のひとつとして利用者の方と一緒に絵を描いたり、手芸をしたりといった創作的活動を通じての機能訓練を行なっています。先月は、年賀状をワープロやステンシルで作ったところです。みなさん個性的なものが出来上がり喜んでおられました。

点訳音訳・ボランティアの集い

平成十三年十一月二十六日、「滋賀農業公園ブルーメの丘」でボランティアの集いを実施しました。日頃のご協力への感謝と親睦を兼ねて毎年秋に行っています。今年は二十八名の皆様にご参加いただき楽しいひとときを過ごしました。



ボランティアの皆様 —ブルーメの丘にて—

ボランティアの集いに参加して

小さな美術館との出会い

「あい」佐々木 聖子
今年も楽しみにしていたボランティアの集いに参加させていただきました。静かな公園に隠れるようにひっそりと建つ小さな美術館をみつけました。

「織田廣喜ミュージアム」では、赤い帽子をかぶった少女像の作品を中心に展示されています。人工照明は使っていないということで鮮明な赤い帽子と、自然の光に融けこませた少女の深い瞳の色が印象的でした。近年、各地にこのような小さな美術館があり、しばしの間感動の世界に招いてくれ心安らぐ思いがしました。皆様と共に過ごさせていただけたいことを感謝しています。

「挑戦」

「しのび」三村 佐弥子
ブルーメの丘、なんともメルヘンチックな響き、私の中にワクワクさせてくれるものがあつた。

まずは、磨り硝子製品の作成。元来好奇心だけは旺盛だが芸術的才能のない私には思案あぐねる。「こうしたら反対や、あつ切れてしまうた」と悪戦苦闘しての挑戦、後は結果オーライと開き直って待つ事に。

次に世界初と言う言葉にも弱い私は、人工照明を一切使わない「日没閉館」の織田廣喜ミュージアムへ、ここでは作者の強い夫婦愛を感じられる絵画に出会い、心が和まされた。最後に冬到来を告げるかのような風の中、園内の建物や花を楽しんだ。

視覚障害者IT講習会を終えて

伊賀地域の視覚障害者に対して、パソコンによる情報格差克服のための講習会を開催しました。

Aコース三名、Bコース四名の参加者で、十二回四十時間にわたり平成十三年十一月五日から始めました。

講習は明和町の橋本隆夫氏を講師に迎え、晴眼者の補助員二名で初心者に教えるもので、このパソコンは画面を音声で読み上げるソフトを導入しています。



音声によってパソコン修得にはげむ受講者

ボランティアの方々 製作された図書等(6/11/30)

グループ「あい」(点訳)

『無気力の心理学』(3冊)
『三月は深き紅の淵を』(6冊)
『聊斎志異 下』(22冊)

『大使のラサ・アブソ』(3冊)
『森敦全集第三巻』(12冊)
『水の勲章』(4冊)
校正(9タイトル62冊)
製本(62冊)

点字触読指導
視覚障害者IT講習会指導
教科書の点訳

グループ「あかり」(点訳)

『犬のミステリー』(5冊)
『ブラックティ』(3冊)
『六番目の小夜子』(4冊)
教科書・参考書等点訳
名張市広報の点訳

グループ「しのび」(音訳)

『虫も殺さぬ』(4巻)
『白い家の殺人』(6巻)
『般若心経のころろ』(4巻)
『椿姫』(6巻)
『日曜日の夕刊』(8巻)
上野市広報の音訳
大山田村広報の音訳
梨ノ木園読書会
中日新聞コラムの音訳

グループ「こだま」(音訳)

『シングル・パパ』(6巻)
『チーズはどこへ消えた』(2巻)
『殺意の青函トンネル』(4巻)
『犬と生きる』(4巻)
『不知火海』(4巻)
『アウト・オン・ア・リム』(9巻)
『がんばらない』(5巻)
『男の脳は「欠陥脳」だった』(4巻)
中日新聞コラムの音訳

お知らせひろば

ご支援ご協力いただいている方々

(二〇〇一・六・一・一・三〇)

《個人》

敬称略

秋森 桂、揚井 博、東 貞子、石原 京子、伊藤嘉枝子、伊藤 好夫、稲垣紀代子、犬飼 常教、井上 恵、猪木 千里、猪木 令三、今坂 フミ、今高 一三、上田 順子、上田 重、上谷 隆昭、上林 博昭、内山 久士、榎並千恵子、大岡 泰、大垣 昭尚、太田 久子、大野 憲男、大野 利江、大藪 宏、岡田 茂樹、岡森 明彦、岡森真理子、奥 秀雄、奥井 克弘、奥田 英夫、奥田やへ子、表 雄一、川波 玲子、北寺 真弓、木戸かよ子、木根 清史、葛原 香積、葛原 孝一、櫻 悦子、後藤 のぶ、小林ふじ智、小林 康志、坂下 光善、佐々木聖子、佐治 行雄、佐藤 公世、佐野 達司、澤 敬子、澤村 雅子、須川 正治、嶋地 勉、清水 恵、須川 芳夫、杉 和子、杉本ちえみ、炭本多賀子、世古 秀次、竹島 和美、伊達 宗男、田中 三紀代、田中 澄夫、田中 英樹、田中 三紀代、田中美代子、谷本 善、玉池 克弥、玉川 弘毅、寺岡 實、寺嶋 由光、豊田 實、島井 恭子、中井 克明、中井 純一、中尾 悦子、中川 京子、中坂 實宏、中出 潔巳、中野美智子、中林 道子、中村 尚、中村 保正、中森 勇、中森美年子、中山 重男、縄手 治郎、西田 道子、西山 成子、長谷川かよ子、島 一幸、西出 成子、長谷川かよ子、華房 良輔、浜口 隆志、原田とみえ、日置 房野、東山 薫、平井 達彦、平井 弘郎、福森つた子、福山 依子、藤井 恵美、福井さんち、藤井 とよ、

《団体》

敬称略

富治林悦子、古川 節郎、古川 弘、別所 法山、細川シズ子、堀本 太久、増田 隆一、町野富小枝、松坂 清俊、松本 学、松山 周子、的場 善暉、丸井 規義、南出 道代、南出 祐子、三山 彦利、三山 文則、三好 寅臣、向井 一子、村田 修、百上富美子、百上 真奈、百北 祥一、森川 孝子、森下 智、森下 弘子、森本 久子、藪山 政一、山岡美智子、山口 徳平、山口 義美、山下登美子、山中 昌和、山本 善晴、山本 濱子、吉岡 正巳、吉川 恵貴子、吉川 淑生、吉田ミサヲ、I N A X、JA長田支店、JA花垣支店、JA花之木支店、JA古山支店、青山町、阿山町、安立寺、伊賀町、伊賀北部消防組合、いせや、今岡米穀店、いむろ、上野印刷、上野市、上野高等学校、上野市議会、上野市車いす友の会、上野市厚生児童課、上野市更生保護婦人会、上野市高齢障害課、上野市視覚障害者福祉会、上野市肢体障害者福祉会、上野市自治会連合会、上野市社会福祉協議会、上野市社会福祉事務所、上野市手をつなぐ親の会、上野市仏教会、上野市民文化祭実行委員会、上野市民生委員児童委員連合会、上野商業高等学校、上野信用金庫、上野市老人クラブ連合会、上野音訳グループのび、上野点訳奉仕グループあい、魚留商店、大内地区、大内郵便局、大滝地区、大山田村、岡波総合病院、小川モーターズ、小田公民館、小田町自治会、小山田苑、桂地区、車坂町自治会、月曜会、甲野屋、恒風寮、コール・フラウミンント、西蓮寺、七本木地区、鳥ヶ原村、ジャクエツ、白樺地区、しらさぎ地区民生児童委員協議会、白ゆり会、心豊苑、大正琴すずらん、大正琴音夢の会、大正琴のぞみ、大正琴ひまわり、大超寺、竹沢商店、たゞ字オカダ、チャイルド、チャリティー寄席実行委員会、朝屋地区、朝屋婦人会、朝屋老人会婦人部、朝屋老人クラブ、鶴萬、寺町自治会、寺町老人会、寺山商店、中瀬地区区長会、長田地区自治会、長田小学校、長田地域婦人会、長田地市民センター、長田老人クラブ連合会、名張音訳グループこだま、名張点訳奉仕グループあかり、名張屋製麺所、鍋本商店、奈良こどものとも社、西尾デンキ、西澤精肉店、治田地区、服部文具、花垣市民センター、花之木公民館、花之木児童福祉会、花之木地区民生委員、はなの里、古山市民センター、古山地区、古山郵便局、フォトサービス平野、法花地区、ボランティアグループあゆみ、ボランティアグループミックスジューズ、町野欣榮堂、マンドリンアンサンブルセシリア、三重チャリティー生オケ協会、三雲カトリックの家、三田公民館、三田地区自治連絡協議会、モモタロー、森本整形外科医院、八百市青果、横山保育社、予野地区、予野保育園教育後援会、るりこう園、



るりこう園

第二梨ノ木園

シヨートステイをご利用いただくために

◆介護保険制度が改正され平成十四年一月からデイサービスやヘルパー派遣などの「訪問通所サービス」とシヨートステイなどの「短期入所サービス」に分かれていた保険支給が「居宅サービス」として一元化されました。このことによりシヨートステイは、他のサービスとあわせて、その介護度の限度額内で連続三十日を上限として利用いただけるようになりました。

◆シヨートステイをご利用いただく前に第二梨ノ木園では、介護、看護のスタッフがご自宅をお訪ねいたします。お一人おひとりに適した介護サービスを提供するために、ご利用者の健康状態、食事、入浴、排泄などの状況について、ご本人やご家族のお話をおうかがいし、私どもからは介護のサービス内容について説明させていただきます。詳しくは担当の介護支援専門員（ケアマネジャー）または、第二梨ノ木園にお問い合わせ下さい。

◆第二梨ノ木園

TEL・FAX〇五九五―二四一―三〇三〇

◆（在宅介護支援センターなしのき）

TEL 〇五九五―二二一―〇五〇五

編集後記

◆お健やかに初春をお迎えになられたことと、お慶び申し上げます。◆皆様のご支援をいただき、第1号を発行することができました。感謝の気持ちでいっぱいです。◆梨丘園や学童保育等、施設が増えてきたこともあり、この際、従来の「梨ノ木だより」をベースに協会全体の会報にさせていただくことにいたしました。本部を中心に、各施設が連帯、力を合わせるべき経営時代でありますから、このような形にさせていただいたということでもあります。何とぞご理解ご協力をたまたまりますよう、お願い申し上げます。ご意見をいただければ幸甚です。（編集子）



伊賀上野城



忍者バイント列車「ノノ」(近鉄伊賀線)

施設マップ



① 盲養護老人ホーム 梨ノ木園 (定員) 70人	⑪ 友生保育園 (定員) 60人	⑳ 府中保育園 90人
② 特別養護老人ホーム 第二梨ノ木園 50人	⑫ 花之木保育園 60人	㉑ 上野点字図書館
③ 老人ショートステイ 20人	⑬ 予野保育園 45人	㉒ 上野市盲人ホーム
④ 在宅介護支援センター なしのき	⑭ 長田保育園 45人	㉓ 在宅障害者デイサービスセンター かの木ひろば
⑤ 老人デイサービスセンター なしのき	⑮ 古山保育園 45人	㉔ 伊賀広域在宅障害者生活支援センター かの木
⑥ 梨ノ木診療所	⑯ みどり保育園 150人	㉕ 身体障害者療護施設 梨丘園 (定員) 20人
⑦ 曙保育園 180人	⑰ 心身障害児療育施設 かののみ園 20人	㉖ 児童クラブ フレンズうえの 20人
⑧ 睦保育園 90人	⑱ ひかり保育園 120人	㉗ 児童クラブ キッズうえの 20人
⑨ 三田保育園 60人	㉙ みどり第二保育園 120人	㉘ 児童クラブ ウイングうえの 20人
⑩ 中瀬城東保育園 115人		㉚ 法人本部事務局